

入って、活気のある会になった。

早坂氏は、変わらずお元気そうにお見受けしたが、実は前立腺癌が見つかった。入院いし、つい最近退院したばかりだ。八十過ぎれば、前立腺癌の人は多く、直ぐ死ぬわけではないと医者に言われた。またそんなに長く生きたいとは思わないので、癌にならなきゃ死ねないだろうなどと、ひょうひょうとした語り口でおっしゃっていたが、その胸のうちはいかばかりかと、辛い思いがした。

早坂氏の心情を推し量って、ある人は、自分も血液の癌を患ったが完快した、心配することはないと言い、ある人は、知り合いが前立腺癌だったが元気になる。前立腺は一番死なない癌だから、先生大丈夫ですよ。などといった。誰もが早坂氏がいつまでのお元気で出席してくれるのを、真に願っているのだと思った。

念願の鹿島で鯛飯を食べる高縄会は五月十三日に開催と決定して発表があった。

二〇一三年は台風並みの低気圧が日本列島に到来で、暴風雨だったが四十二名の参加で大盛況だった。森社長もいかなご釜揚げやおみやげのくぎ煮などたくさん持参で参加してくれた。

早坂氏は退院してきたばかりだとおっしゃっていたが、高縄会、郷土愛を溢れる思いでゆったり時間を掛けて語ってくれた。

渥美清さんが鹿島を好きでよく来たこと、その際泊まった太田屋の前あたりに、秋頃、彼の句碑が建つだろう。「赤とんぼ じつと泊まって あしたどうする」が良いだろうと考えている。「お遍路が 一列にいく にじのみち」と言うのもいいが、赤とんぼの方が良いだろうと思う。

また北条は町並み保存が出来ない街だが、それは倉がない街だからだろう。でも鹿島があるから良い。鹿島は素晴らしいところなのに、松山からの交通が良くないから人を呼び込めないのが残念。もつともつと考えてもらいたい。

体調についても、詳しく語っていた。このところ半年間、入院して手術ばかりしていた。体調は余り良くない。心臓にステントを入れて繋ぐ手術だったが、血流があまりよくないのだ。ステントは十年は持つと順天堂の医者は言うのだが、他に動脈瘤があるので、来月入院して、神の手と言われている医者にステントを入れる手術を受ける。

他に癌もあるのだが、後十年、命が欲しい。五年後を目途にして、大河ドラマにしたいと思って書いている。日本中を歩いて踊る宗教の始まりと言われる一遍上人を主人公にして、河野水軍の話を書きたい。河野村が中心のものすごいドラマだ。「国難」と題して毎日新聞に連載したが、一年の約束が半年延びても、まだ、三分の一位しか書かれていない。それを書き上げて、三笑の大河ドラマにする。そのときはみんな、エキストラになつて出演して欲しい。

ひょうひょうとした語り口で、大きな夢をかたられていたが、きつときつと実現出来るだろうと思えたのだった。

二〇一四年は二十七名の出席だった。

早坂氏はかなり体調がお悪い様子だった。奥様が、倒れる心配があるので、